

音楽科学習指導案

実施日 平成23年10月21日
実施クラス 2年1組
授業者 関谷由美子

1 題材名 日本の音楽に親しもう～箏による二部合奏「さくら」

2 題材設定の理由

箏の演奏活動を通して、日頃、触れる機会の少ない日本の音楽に触れる。それにより、日本の音楽や楽器の特徴を知り、奏法のおもしろさを味わうことで、日本の音楽に親しむ。

3 題材の目標 新学習指導要領 A表現(2)イ 楽器の特徴を理解し、基礎的な奏法を生かして演奏すること。

4 題材の指導計画と評価計画(4時間扱い)

	主 な 学 習 活 動	評 価 規 準
第1時	・箏の構造、弦の名前、柱、爪、調弦、座り方 ・親指のみ、爪をはめて「さくら」の冒頭部分の演奏 ・六～九の弦の柱を立てる。(一～五の弦の柱は予め立てておく。)	箏の特徴について関心をもち、意欲的に取り組むことができる。(関心・意欲・態度)
第2時	・「押し手」を使い、「さくら」全曲の演奏 ・一と七～巾の弦の柱を立てる。(二～六の弦の柱は予め立てておく。)	基礎的な奏法を習得して演奏できる。 (表現の技能)
第3時	・箏の楽譜、唱歌の読み方 ・3本の指に爪をはめて「さくら」の演奏 ・「スクイ爪」「合せ爪」「流し爪」の奏法 ・一と五～巾の弦の柱を立てる。(二～四の弦の柱は予め立てておく。)	楽譜や唱歌の読み方を理解し、日本の音楽について理解を深めることができる。 (表現の技能) (音楽的な感受や表現の工夫)
第4時 (本時)	・箏の二部合奏 ・すべての柱を立てる。	様々な奏法を習得して、それによる音色の違いを味わいながら表現を工夫して演奏することができる。 (音楽的な感受や表現の工夫)

5 授業改善のポイント(言語活動の充実の観点から)

箏は一面を二人で使用する上、形が大きく、準備に時間がかかることから、調弦も曲の演奏も二人一組で助け合い、教え合いながらの言語活動を取り入れた授業展開を工夫する。さらに調弦では、音の確認のため、積極的に教師への助言を求めることも予想され、主体的な活動、学び合いのできる場面を多く設定していく。

6 本時の授業

(1) 本時のねらい

様々な奏法を使って、音色を味わいながら表現を工夫して演奏する。
(音楽的な感受や表現の工夫)

(2) 本時の展開

	学 習 内 容	教師の働きかけ	予想される生徒の反応	指導上の留意点(評価)
導入 15分	- すべての柱を立て、調弦をする。 3本の指に爪をはめる。 - 巾～一、一～巾の弦を順に弾く。 「押し手」を巾の弦で弾く。 「さくら」を演奏する。	<u>二人で協力して柱を立てさせる。</u> - 机間指導して、遅い所は手伝う。 - 姿勢、右手の形、左手の位置に注意。 - 交代して同じことをさせる。 - 交代させる。	- すすんで調弦する。 - 友達を頼る。 - 教師を呼ぶ。 - 弾いた後の弦に指が止まらない。 - 左手が面の下にある。	- 調弦に、意欲的に取り組めるよう指示をする。 - 正しい形、奏法で演奏しているか確かめる。 - 箏の特性に関心をもたせ、意欲的に取り組ませる。
展開 25分	「スクイ爪」「合せ爪」「流し爪」の練習をする。 1のパートを練習する。 2のパートを練習する。	- 教師が説明しながら範奏する。 <u>これらの奏法の唱歌を二人で決めさせる。</u> <u>演奏していない生徒はしている生徒に助言させる。</u> ☆様々な奏法を使って二つのパートを演奏してみよう。 - 交代させる。 - 交代させる。	「スクイ爪」「合せ爪」「流し爪」がのびのびと表現できる。 - 弦を流しきれない。	- 正しい形、奏法で演奏しているか確かめる。 - 二人組で教え合えるよう指示をする。
まとめ 10分	- 全員で合わせる。 - すべての柱をはずす。	<u>演奏していない生徒はしている生徒に拍を取ったり、唱歌で伝えるなどして協力させる。</u> - 交代させる。 <u>二人で協力してはずさせる。</u>	箏の響きと、二つの旋律の重なりを聴く。	◎箏の雰囲気を生かして表現を工夫することができる。[観察] (音楽的な感受や表現の工夫) - 片付けを進んで丁寧に行わせる。

7 本時の板書計画

めあて …奏法の違いによる音色の特徴を味わいながら演奏しよう。

押し手
スクイ爪
合せ爪
流し爪